

科目ナンバリングコード	Kg13334101	授業科目名	子ども学概論 (国際文化学部)		
担当教員名	清水 貴夫、国際文化学部開講責任者				
履修可能開始学年	3年	単位数	2.0単位	授業区分	週間授業
開講年度	2025年度	開講学期	2025年度4Q	開講曜日・講時	月曜3限、水曜3限
主要授業科目		クォーター開講科目		セメスター開講科目	

科目分類	専門選択科目	抽選科目		教室	
授業形態種別	講義	授業実施形態	対面授業		
相関するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
相関するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
相関の有無	●	●		●	●

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html">https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html</a>	ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	<a href="https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html">https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html</a>
---------------------	---	----------------------------	---

サブタイトル	社会の中の「子ども」を中心に
授業の目的・到達目標	(1)子どもを一つの人格として捉え、客観的に理解できる。 (2)子どもをめぐる社会問題について、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。 (3)自らが立てた問いを専門的な知識に基づいて分析・考察できる。
授業の概要	世界人口が80億人を超え、さらに30年先には100億人を超えと言われています。日本では高齢化社会、少子化と言われる中、世界はどんどん若くなっていきます。こうした世界を理解するためには、若者や子どもというジェネレーション (世代) を知る必要があります。私たちすべてが「子ども」の時代を過ごし大人になっていることに間違いはないでしょう。必ず「子ども」時代を経験したにも関わらず、私たちの記憶の中の「子ども」の時代は次第に薄れ、次第に忘却されていきます。しかし、人間の一生は連続したもので、ある瞬間「オトナ」になるわけではありません。「子ども」時代は人間にとってどのような意味を持つのでしょうか。人間は、社会的な動物です。こうしたことを解き明かすには、様々な視点から考えをめぐらす必要があります。この講義では、「子ども」について、生物学、心理学、社会学などの分野からの視点を概観し (前半)、「子ども」という他者をどのように捉えるかを担当者の事例から紹介していきます。
実務経験／実践的教育	
授業計画	1. イントロダクション：講義の概要と「子ども学」について 2. 「子ども」の捉え方①：生物学的な「子ども」について 3. 「子ども」の捉え方②：家族における「子ども」 4. 「子ども」の捉え方③：歴史社会的な視点から見る「子ども」 5. 子どもと社会①：遊びと子ども 6. 子どもと社会②：現代日本における「子ども」 7. 子どもと社会③：少子化問題 8. 子どもと人類学①：文化人類学における「子ども」 9. 子どもと人類学②：「子ども」と学び~学習 10. 子どもと人類学③：「子ども」と学び~教育 11. 子どもと人類学④：「ストリート」における子ども①~生活 12. 子どもと人類学⑤：「ストリート」における子ども②~社会問題 13. 子どもと人類学⑥：「ストリート」における子ども③~子どもとオートノミー 14. まとめと期末試験
履修者数により、ワークショップ形式の講義を取り入れることがあります。	
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)	

単位制度の趣旨に則り、次に示す授業外学習(自学自習)時間が必要です。【1単位につき週あたりに必要な自学自習時間】クォーター科目：講義・演習 4.5時間、外国語・実習 2.5時間/セメスター科目：講義・演習 2.25時間、外国語・実習 週1.25時間 ※2単位科目の場合は上記を二倍、3単位科目は三倍し

てください。また、演習科目はカリキュラム年度によって授業時間と自学自習時間の配分が異なりますので、シラバスや科目担当者の授業内での指示に従ってください。この科目では授業外学習として、以下の内容に取り組んでください。

単位制度の趣旨に則り、この授業では1回の授業あたり4.5時間の授業外学習が必要になります。 質問やコメントは歓迎します。ただし、授業の復習の際、分からなかった理論、概念は復習の際に自分で調べる癖をつけてください。
評価方法・評価基準
授業内での取り組み：30%、中間試験：30%、期末試験：40%
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
特に子ども好き、教職に就きたい方にお勧めしますが、ちょっとした関心から取っていただいても結構です。
購入必須テキスト
参考文献・作品等
南本長穂・山田浩之(編著)2015『入門・子ども社会学』ミネルヴァ書房 清水貴夫・亀井伸孝(編著)2017『子どもたちの生きるアフリカ 伝統と開発がせめぎあう大地で』昭和堂 亀井伸孝(著)2009『遊びの人類学こどもはじめ-フィールドで出会った“子ども”たち』昭和堂
参考WEBサイト(サイト名・URL)